

# 韓国で

## 「こんにちは！」

長安大学観光通訳日本語学科専任講師

笹本 明子

(平成16年3月大学院修了)

### 韓国語で日本語の授業

今年の3月から韓国にある大学で日本語を教えています。

今学期の担当は「教養日本語」。日本語学科以外の他学科の学生向けの第二外国語の授業です。日本語専攻ではないので、説明は韓国語で行います。私の韓国語力ではまだまだ足りないのですが、日本語の教師であり韓国語の学習者でもあることで、コミュニケーションの難しさと楽しさを再確認する良い機会となりました。

### 私の名前はオーサカセンセ？

日本語学科の修学旅行先が大阪だったので、出発前にある学生に関西の話をしました。直接教えていませんですが、私に会うと「オーサカセンセ！」と声をかけてくれます。私の名前はもちろんちゃんと知っています。実は、「○○サカ」というお名前の先生がいっぱいいるのです。「○○サカ先生がいるから、先生（私）はオーサカ先生です」。学生の発想は本当に面白いです。

### 知識と自然さとの間で

ある日の午前11時半頃、日本語学科の学生に「こんにちは」と挨拶をしたら、



大学祭で日本語学科の学生と（左から2番目）



「今何時ですか？」と言われました。なぜ挨拶をせずに時間を問われたのか一瞬戸惑いました。実は、時間に関係なくいつでも「アンニョンハセヨ」と挨拶する韓国語と違い、日本語は時間帯によって挨拶の言葉が変化すると習っているため「まだ午前中のはずなのに…」という気持ちで言ったらいいのです。しかし、挨拶の返答としてはやはり不自然で、相手によっては思わぬ誤解を生むこともあります。上級レベルの学生でも、知識に縛られ会話が成立しないことがあるのだと痛感しました。文法や語彙を確実に学ぶことはもちろん重要ですが、さらに「自然な」日本語の運用能力も並行して目指し、少しでもその助けになればと感じています。

# 夢の甲子園へ

愛知県立中村高等学校・教諭

田川 誠

(平成11年3月教育学部卒業)

### 夢への第一歩

初任者として本校に赴任し7年目を迎えました。小学校教員養成課程を卒業したのですが、どうしても監督として甲子園に出場したいと思い、高校教師にこだわり続けました。高校教師としての甲子園への夢が破れてから7年後、3度目の採用試験で再び夢への挑戦権を獲得しました。

夢への第一歩として、まず目標としたのは190校中38校しか出られない県大会への出場でした。目標を達成できたのは、6年目の春でした。本校にはバケットネットやマウンドといった野球のできる環境がなく、思うような結果が出ない日々が続きました。そんな中、心の支えとなったのは、ひたむきに練習に取り組む部員たちの姿でした。練習方法に工夫を重ね、他校にはない自分たちの野球を貫いた結果でした。「努力は報われるとは限らない、でも努力しなければ絶対に目標は達成できない」と生徒に語りかけ、6年にわたって生徒とともに必ず報われる日が来ると信じ続けてきた目標がやっと達成できたのです。

### 努力し続ける限り…

大学では、多くの判断が個人に委ねられます。その中で、専門的教養を高め、社会人としての適切な判断力を養っていく場所こそが大学なのです。

私は硬式野球部に所属し、主将として練習計画から采配までを任されていました。それについて仲間と熱く語り合ったことが、今に生きています。失敗もたくさんしました。「次は成功したい」「絶対勝ちたい」という思いへとつながり、必死で努力しました。それでも思いどおりにいかないことの方が多かったように思います。しかし、私は努力し続ける限り、いつの日か目標は達成され、夢は叶うと信じています。



第88回全国高等学校野球選手権愛知大会にて（左端）



学祭にて(右から2番目)

## 北の大地での 教員生活

北海道東海大学工学部海洋環境学科・講師

斎藤 裕美

(平成9年3月教育学部卒業・平成11年3月大学院修了)

### 自分でも意外ですが…

奈良教育大学を卒業して8年になり、私自身思いがけない事ですが、多くの同級生達と同じように私も先生になっています。

現在、北海道東海大学工学部海洋環境学科にて講師として着任し、2年になります。専門は水域のさまざまな生物とそれを取り巻く環境との関係をあつかう群集生態学で、私は海洋や河川・湖沼の多様な水域の生態系のシステム

を紹介したり、水産生物のデータをパソコンを用いて統計解析する手法等を授業で教えています。

現在の私は奈良教育大学生時に「川の生き物を研究したい」という夢をかなえる事ができ、またそれが職になった事で本当に幸運だなと思います。

### 大学の授業にて役立った経験

現在の職にて、一番役立っている奈良教育大学での経験は「授業」の組み立て方を教育実習で習った事です。

大学の授業は、自分で約半年分の授業内容を決定しますが、その内容も特に「コレを教えない」というものはありません。特に、確固たる証拠のない新しい理論を授業で紹介する場合、私は大変心細いものを感じます。しかし、私にとって附属小学校の教育実習にて経験したシラバスの作成経験は、時間や内容こそ違いますが、理論的に展開する授業の組み立て方の基礎として多に役立っています。

### 学生と共に一喜一憂

赴任して2年と教員としてまだまだ未熟な私ですが、赴任当初、大学の教員は学生生活の最後の先生になる事で、私は社会に出る前の学生に何かできるのだろうかというプレッシャーを感じた事もありました。しかし、最近は背伸びせずに学生たちの就職活動の結果や卒業研究の成果に共に一喜一憂しながら、今の自分にできる事を精一杯やっています。

## あ と ひ

## 子どもたちの 成長が1番の やりがい

岸和田市立東光小学校・教諭

高見 真依

(平成17年3月教育学部卒業)

### 今年で教師生活3年目を迎えます。

私の勤務する小学校は、病弱・肢体不自由の障害のある児童を受け入れるセンター校であるため、市内全域から障害のある子どもたちが通学しています。そのため、ほとんどの通常学級に1〜2名の養護学級に在籍する児童がいます。最初に受け持ったクラスには、ダウン症の男の子がいました。どんなふうに関わったら良いのだろう、教師の



春の校外学習 クラスの子どもたちと(上段右端)

仕事も学級担任も初めてなのに…いろんな不安がありました。

しかし、この2年間で感じたことは、担任の思いはクラスの子どもたちに必ず伝わるということです。いろんな行事や活動で、「障害があるから、みんなと一緒にできない」のではなく、「一緒にできることを考える」ことを大切にしてきました。「みんなちがって、みんないい」。違いを違いとして認め合えるやさしさが子どもたちの中に芽生え、一人ひとりが輝けるクラスを今年も作っていきたいと思っています。

### パワーをくれる子どもたち

大好きな子どもたちと共にすごした2年間を終え、今年はまるで宇宙人のような1年生の担任。話が通じなかったり、時には意味のわからないことを言ってくれたりしますが、この子どもたちもあと3年経ったら、昨年受け持った子どもたちに、いろんなことができるようになるんだろうな…という成長の楽しみを思い描きながら毎日を送っています。

「高見先生! がんばって!」と、忙しくしている私に廊下からエールを送ってくれる昨年担任した子どもたちに元気づけられながら、「たかみ まいせんせい!」とフルネームでひっきりなしに呼んでくれる1年生の子どもたちと一緒に成長する毎日。いろんな出会いのある学校で、子どもたちにパワーをもらいながら、これからも元気いっぱい、先生という仕事を楽しみたいです。

# いつも「子どもたちのために」という思いで

奈良県警察本部生活安全部少年課・

課長補佐（少年サポート担当）

植村 育代

（昭和53年3月教育学部卒業）



少年被害者支援専門部会での司会（左上）

## 突然の異動

今年3月の異動で、奈良県警察本部少年課への派遣を命ぜられました。主な仕事は、学校や教育委員会と警察との連携のための調整、少年サポートセンターの職員たちと被害防止教室や防犯教室、街頭補導、事件に関係した被害少年の立ち直りのための相談業務等の仕事をしています。最近では、7月

7日に開催された「青少年健全育成奈良県大会」の準備に走り回っていました。

## 国語の教師から指導主事に

もともとは、高校の国語の教師として20年近く教鞭をとっていました。が、教頭試験に合格してから大きな転機が訪れました。まず県立教育研究所の指導主事になり、6年間小中高の国語教育や学校図書館教育の指導、評価の研究、全国の研究所連盟の大会の運営や研究のまとめ等をしていました。指導主事になってからは、大好きな生徒たちとかかわることはなくなりましたが、その代わりに小中高や全国の教育研究所のいろいろな先生方と知り合うことができました。

## 生徒たちとのかかわり

その後3年間高校の教頭を務め、現在に至っています。教頭時代には、生徒のカウンセリングや国語の先生方と一緒にディベートの授業を行うなど、少しでも先生方や生徒たちとかかわる時間を持てるようにしました。教師というものは、やはり生徒たちと接することが一番大切なことだと思います。

最近、青少年にかかわる悲惨な事件が後を絶ちません。とても心が痛みます、どこにいても、どうしても子どもたちが安全で楽しい学校生活を送れるのかを考えながら、頑張っていきたいと思っています。

# 知的財産の出前授業に関わって

大西特許事務所弁理士

大西 正夫

（昭和61年3月教育学部卒業）

## 弁理士って？

弁理士は、現在全国に約7200人おり（2007年3月31日現在）、特許権や商標権を取得するための出願の代理、発明や特許に関するコンサルティング、特許権侵害訴訟での代理人などを主な仕事にしています。おそらく、奈良教育大学OBで弁理士になっているのは、私一人ではないでしょうか。

## 知財授業に関わって

私は、以前から知的財産権の講演を企業、公的団体、大学で数多く行って



小学校での出前授業（中央）

きました。さらに最近、弁理士が小学校にお邪魔して知財に関する授業を行う「弁理士による出前授業」にも関わることになりました。

この出前授業は、「発明は難しく、発明を考えるのは楽しい。発明はみんなの生活を豊かにする。人の発明をまねだけするのはよくない」というコンセプトを伝えるための、コントやクイズなどのエンターテイメント（？）です。この出前授業を通して、「発明を考えることの楽しさ」などのコンセプトが子どもたちに少しでも伝わればと考え、いろいろと工夫をしています。

その工夫の結果でしょうか、授業の途中までは「偽物でも安ければ良い」とする子どもが圧倒的なのですが、授業が進むにつれて「偽物は良くない。まねは良くない」と考える子どもが圧倒的に多くなります。

## やっぱり教壇は楽しいな

教育大学を卒業しながら教壇に立つことがなかった私ですが、この出前授業のおかげで小中学校の教壇に立つてしまいました。出前授業は、子どもたちの真剣な眼差しが注がれるので、企業や大学で行うものと違った緊張感があります。子どもたちの素直な——ときには思わぬ——反応があるので、私たち弁理士にとっても非常に楽しいものです。

この出前授業を通して、「知識は人に教えることによって本当に自分のものになる」という言葉を実感しています。

れ ・ こ れ

# 出会いを大切に

岡山リビング新聞社・編集部  
東田 実永子

(平成15年3月教育学部卒業)

## 仕事を通して日々成長

まだまだ新人と思っていた私も今年で入社5年目。だんだんと、中堅と呼ばれる立場に変わってきました。

私が勤務している「岡山リビング新聞社」では、30〜40代のミセスをターゲットにした無料生活情報紙『リビングおokayま』と『リビングくらしき』を発行。

私は編集部で紙面の企画立案から取材、撮影、原稿執筆を行っています。発行は毎週。日々、締め切りと戦う毎日です。

さて、一言で生活情報紙といっても、ファッション、グルメ、住宅、金融、医療…ジャンルは多岐にわたります。もちろん取材対象もさまざま。一般の主婦や子ども、料理人、メーカーの方、医師、時には有名人にインタビューできるチャ



社員旅行で上海を訪れて (前列右)

ンスもあります。

取材で楽しみなのは、その人の人となりに触れられること。輝いている人と接していると元氣が出るし、自分にならないものを持っている人に会うと、刺激になります。取材は、知識の世界を広げてくれるだけでなく、人間力を養う場として大いに役立っているのです。

また、この仕事をして何より嬉しいのは、読者や取材先から感謝の言葉をいただいたとき。倉敷の朝市を特集した時は、紹介したお店に長蛇の列が。言葉の持つ力に驚くと同時に、自分の記事に対して読者が混乱しないよう、責任を感じます。

## 貴重な大学生活

奈良教育大学で4年間勉強できたことに、今とても感謝しています。

それまで西洋美術ばかりに目を向けていた私に、新たに「東洋の美」を教えてくれました。明日香村で野焼きをしたこと、仏師の先生を招いて塑像を作ったこと、正倉院や博物館の修復工房を見学したことも忘れられません。こんな貴重な経験、普通に暮らしていればできませんよね？

「学生時代は色々な経験をしておきなさい」とは、周囲や親からよく言われることですが、まさにそう。何気ない経験もいつしか花咲く時がくるかもしれませんよ。

# あ と ひ

## 絶対に絶対に絶対にできる！

奈良県総務部統計課調査第一係  
温品 豊永

(平成14年3月教育学部卒業)

## 行政の仕事は最先端

奈良県職員となり、丸3年が経ちました。現在は統計課で執務しております。担当する仕事は、人口や国勢調査に関すること等です。統計課では、最新の統計データを把握することができ、社会のダイナミックな動きを日々感じています。

行政の仕事に携わっていると社会の最先端を走っているという実感があり、とてもやり甲斐を感じています。

## 問い掛けること

社会人となって以来、様々な人や環境等に囲まれ、いろんな刺激を受けながら、それでも頑なに変わらない自分が見えてきました。

同様に、必ずしも奈良県が一個の人格を有する主体と考える訳ではありませんが、地方自治の本旨という制度を踏まえつつ、奈良県を奈良県たらしめているのは何か、奈良県のアイデンティティのようなものを探っていきたいです。

奈良県とは？ 自分とは？と問い掛ける姿勢は、物事の本質を見極めようとするものであり、学問を修得する際



職場にて

の姿勢と共通するものがあります。つまり、学生時代の勉学が社会人になっても生かせる訳ですし、生かせるくらい大いに勉学に励んでもらいたいと思っています。

## 奈良県と自分

単独では意味を持たぬことも、他と比較することで初めて意味を持ち、理解が可能となる場合があります。例えば、時速100キロメートルの車が速いという評価は、時速50キロメートルが普通であるという前提があつて初めて理解が可能となります。今回は、比較的視点を通じて書きましたが、この視点は恩師である竹原教授から学んだものです。

今後は、奈良県と自分を比較しつつ「絶対に絶対に絶対にできるんだ」という強い気持ちを持ち（この気持ちを持つことで見えてくるものがあります）、生きていきます。